

産前・産後ケア

聞かせてほしい、 あなたの悩み。

あなたの周りでも
誕生している
新しい生命。
母親はうれしい反面、
不安や悩みを抱えています。
その思い、誰かに話すことで
解決できるはず。
家族や地域で、
母親のためにできることを
考えてみませんか。

【問い合わせ先】
健康推進課 ☎0968(25)7219

安心して 子育てできる 環境を

産前・産後は身体的な負担
が大きく、精神的にも不安
定な時期。妊娠・出産や子育
てに関する母親の不安を少
しも取り除くために、市で
は相談窓口や支援拠点の整
備を進めています。

母親の不安を取り除きたい

近年、核家族化が進み、産前・産
後に家族の助けが十分に得られず、
不安や孤立感を抱く母親は少なくあ
りません。さらに、祖父母が遠方に
住んでいる人も多く、コロナ禍で協
力を仰ぐことが難しくなっています。
泗水支所市民生活課の前田玲子保

健師は「産前・産後の女性は、つわ
りや体調変化によるストレスなどで
身体的な負担が大きく、精神的にも
不安定になる」と話します。「気軽
に相談できる人が周りにいないこと
もあります。家族や地域で妊娠・出
産や子育てに関する母親の不安を取
り除いていくことが重要です」

てまで、さまざまな悩みを受け付け
る相談窓口として、子育て支援課内
に「子育て世代包括支援センター
『きくぴあ』」を開設しました。5月
には泗水支所内に「こども健診セン
ター」を開設し、育児相談を随時受
け付けているほか、地域子育て支援
拠点との連携を進めています。

産後ケア事業がスタート

今年4月には母子保健法の一部改
正により、全国的な取り組みとし
て「産後ケア事業」も始まりました。
昨年9月の乳児訪問や乳児健診の際
に市が行ったアンケートで母乳育児
の悩みが多く、産後の家族の協力体
制に不安があることが分かったこと

相談窓口、 支援拠点の整備が進む

市ではこれまでに乳幼児健診や育
児相談、保健師による赤ちゃん訪問
などを行ってきました。乳幼児とそ
の保護者が気軽に集い交流できる場
として地域子育て支援拠点も整備。
昨年4月には、妊娠・出産から子育

／ 私たちが赤ちゃん訪問をしています！ ／



㊤から菊池奏恵保健師、前田玲子保健師、
松本絵里主任保健師、衛藤佳倫保健師

つどいの広場で
出会ったことがきっかけで
仲良くなりました！



伊波智美さん・研陽ちゃん
(桜山一)

つどいの広場にはよく行
きます。ネットやメディ
アにあふれる情報で不安に
なって悩んだ時も、ここで話
をして解決できました。これ
からもいろんな話を聞いて、
楽しく子育てしたいです。
交流も広がっていますよ。



市の母子手帳

市の子育て相談窓口

菊池市子育て世代包括支援センター
「きくぴあ」(子育て支援課内)

☎0968(25)1121

【受付時間】

平日 午前8時30分～午後5時15分

こども健診センター(泗水支所内)

【育児相談受付時間】

平日 午前9時～午後4時

市の地域子育て支援拠点

【つどいの広場】

ひだまり(旧聖母幼稚園内)

☎080(1714)9818

あいあい(こども健診センター2階)

☎090(6893)5971

ひなたぼっこ(七城老人福祉センター内)

☎090(8916)4666

【子育て支援センター】

さくらんぼハウス(菊池さくら保育園内)

☎0968(24)3880

ふ・く・も・と・の・森(福本保育園内)

☎0968(38)4651

スマイル新明(新明保育園内)

☎0968(37)3126

アプリケーション

母子手帳アプリ「母子モ“きくちっこ”」

予防接種や子どもの成長記録の管理、家
族間での情報共有が可能。子育てに関す
る知識や地域のイベント情報も提供します。



ダウンロードは
こちらから



佐藤亜岐さん・律果ちゃん
(高永)

コロナ禍でなかなか難し
い部分もありますが、
イベントがあると外に出掛け
るきっかけになります。つど
いの広場では出会った人と
子育ての悩みや情報交換が
でき、つながりができるのが
うれしいです。

子育てを 楽しんでほしい

次男が10月で2歳になる松岡敬史さん・愛さん夫婦（東原）は、職場の理解もあり互いの勤務を調整。家事や育児も分担しています。「夫は言わなくても分かってくれます。言いたいことを言っても優しく受け止めてくれます」と愛さんは話します。「頼れる部分は頼っていい。私もいろんな人に話を聞いてもらいました。無理せず子育てを楽しんでほしい」

家族の助けが十分ではない家庭もあります。それでも、悩みを一人で抱え込まず、心にゆとりを持つことが大切です。

子育てへの不安を取り除くために。聞かせてほしい。あなたの悩み。



カメラを前に笑顔を見せる松岡さん一家。上段左から松岡愛さん、敬史さん。下段左から長男の龍之介ちゃん、次男の虎之介ちゃん。



未来助産院(久米二)で和田洋子助産師[㊟]から、だっこを学ぶ河津紘喜さん、美耶さんと生後2カ月の陽仁ちゃん一家(大津町)

「孤育て」にならないために

妊娠、出産、子育てに関する情報は真偽の分からないものも多く、判断に悩むことがあります。大切なことは、話をすること。誰かに頼ること。悩みを解決するためのヒントを専門家に聞きました。

相談できる
選択肢の一つとして

和やかな雰囲気の中、母乳の悩みを相談したり抱っこ仕方を学んだりする夫婦。それぞれの家庭で異なる悩みに寄り添う助産院では、病院の説明で分からなかった部分をフォローしています。

「産後は初めてのことばかり。妊娠中から子育てへの心のゆとりが持てるよう準備ができるといいですね。私たちを相談できる選択肢の一つとして考えてもらえば」と話すのは和田洋子助産師。田中妙子助産師や桐原良子助産師とともに「産後ケア事業」の「訪問型」のサービスを行います。桐原助産師は「専門家として話を聞いています。少しでも悩みが解決できればうれしいですね」と話しました。

家庭に合ったアドバイスを

たくさんの情報にあふれている現在では、何が正しいのか迷う人が増えています。しかし、悩みも解決方法も人それぞれ。助産院では各家庭に合ったアドバイスをしています。生後3カ月の昂大ちゃんと助産院に

母親に優しい社会へ

通う上堂蘭真裕さん(熊本市)は「悩みを相談することで子育てが楽しくなりました。肩の力を抜くことができましたね」と笑顔を見せました。

「未来を担う子どもたちのために、みんなで子育てについて考えていきたいですね」と田中助産師は話します。「人生のスタートに丁寧に寄り添ってほしい。さまざまな悩みや不安に翻弄されることが多い現在だからこそ、社会で孤立して“孤育て”にならないよう、家族で、地域で、母親がゆとりを持てる優しい社会に変えていきたいですね」



㊟から田中妙子助産師、和田洋子助産師、桐原良子助産師

産後ケア事業

助産師が家庭に訪問する「訪問型」、産婦人科医院に宿泊する「宿泊型」があります。

【助産師】

- 未来助産院(菊池市) 和田洋子助産師
- 桶谷式たなか母乳育児相談室(山鹿市) 田中妙子助産師
- お母さんと赤ちゃんのための桐原よし子助産所(大津町) 桐原良子助産師

【宿泊施設】 齋藤産婦人科医院(菊池市片角294)

【対象】 市内在住で産後1歳未満の子を持つ母親とその家族

【申し込み先】 健康推進課 ☎0968(25)7219

	利用回数	利用料 (所得額により減額あり)
訪問型	3回まで	1回 1,500円
宿泊型	6泊まで	1回 3,000円

インタビュー

【産後ケア事業の「宿泊型」提供施設】 齋藤産婦人科医院

健やかな妊娠・分娩のためには、周りの協力が不可欠

妊娠・出産や子育てで悩むのは何も不思議なことではありません。ホルモンバランスや体調の変化も当然起こりうること。妊娠・出産はそういう現象なんです。思い悩むことなく、何に不安を持っているのか、ぜひ病院や家族に話をしてほしい。話をすることで不安を解決できます。

私たち産婦人科医は健やかな妊娠・分娩を願っています。そのためには周りの協力が不可欠。言葉をかけて、話を聞いて、母親にもっと寄り添ってほしい。そういった心掛けが、女性にとって安心して出産し、子育てできる環境づくりにつながります。



さいとうこうせい 齋藤厚生医院長